

令和元年6月13日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K03320

研究課題名(和文) 越境的アクターの政治的機能－太平洋島嶼地域における台湾承認問題をめぐって

研究課題名(英文) Political Function of Transnational Actors: A Case Study of Diplomatic Recognition to Taiwan in the Pacific Islands Region

研究代表者

小柏 葉子 (Ogashiwa, Yoko)

広島大学・社会科学研究科・教授

研究者番号：30224091

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：国家の枠組みを超えて活動する越境的アクターは、従来の国家中心的な国際関係のあり方が変容を遂げる中で、その存在感をいっそう増しつつある。本研究は、国家の利害をこえて行動する脱国家的な越境的アクターの機能が強調される一方で、看過されがちな越境的アクターの担う国家の利害を反映した政治的機能について、台湾および太平洋島嶼地域に居住する越境的アクターとしての先住民族を事例とし、太平洋島嶼地域における台湾承認問題をめぐるその政治的機能の分析を通じて考察を行った。事例分析から、越境的アクターの主体性が増すことによって、国家の利害を反映した越境的アクターの政治的機能が高まりうることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、国家の利害をこえて行動する脱国家的な越境的アクターの機能に焦点を当てた従来の研究に対し、国家間関係のみが構成するものではなくなった国際関係において、越境的なアクターを通じた利害の反映という可能性の広がりが国家にもたらされている点に注目し、国家の利害を反映した越境的アクターの政治的機能という新たな問題視角を提示して、それがどのように機能しているのか、太平洋島嶼地域における台湾の外交的承認獲得をめぐる先住民族の政治的機能に関する実証分析に基づいて明らかにした点である。

研究成果の概要(英文)：The transnational actors are increasing their presence in changing international relations where states no longer occupy the predominant position. While function of transnational actors transcending national interests has been emphasized, their political function reflecting national interests is often overlooked. Focusing on indigenous peoples in Taiwan and the Pacific Island region as transnational actors, this study analyzes their political function reflecting national interests on diplomatic recognition to Taiwan in the Pacific Island region. It argues political function of transnational actors will be intensified with expanding a room for their spontaneous conducts.

研究分野：国際関係論

キーワード：トランスナショナル 太平洋島嶼地域 台湾 国際関係 地域研究 先住民族

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

国家の枠組みを越えて活動する越境的アクターは、従来の国家中心的な国際関係のあり方が変容を遂げる中で、その存在感をいっそう増しつつある。こうした越境的アクターに関する研究は、国家の利害をこえて行動する脱国家的な機能に焦点を当てたものが多くなされてきた。

その一方で、国家間関係のみが国際関係を構成するものではなく、そこでの越境的アクターの存在感が増していることが、国家に対し、越境的アクターを通じた利害の反映という可能性の広がりをもたらしている点については、しばしば看過されてきた。本研究は、このような越境的アクターの担う国家の利害を反映した政治的機能について考察を行うものである。

上記の問題関心に基づき、本研究では、事例として、太平洋島嶼地域における台湾の外交的承認獲得という政治目的をめぐる、台湾および太平洋島嶼地域に居住する越境的アクターとしての先住民族の機能についてとりあげる。太平洋島嶼地域は、国際社会において台湾を承認し外交関係を持つ国家のうち、その約4分の1(2019年4月現在は約3分の1)が存在する、台湾にとって、外交上、重要な地域である。太平洋島嶼地域における台湾承認問題をめぐる先住民族の機能に関する分析は、国際関係における越境的アクターの政治的機能を考察する上で、有用な事例として考えられる。

2. 研究の目的

(1) 国際関係における越境的アクターとその機能に関して、先行研究の整理と理論的分析を行い、概念枠組みを構築する。

(2) 太平洋島嶼地域における台湾の外交的承認という政治目的をめぐる、越境的アクターとしての台湾および太平洋島嶼地域に居住する先住民族の機能を事例とした現地調査を実施し、それに基づく実証的な考察を通じて、越境的アクターが国家の利害をめぐってどのように機能しているのか、その実態を明らかにする。

(3) 上記の実態調査で明らかになった、国家の利害を反映した越境的アクターの政治的機能について考察を行い、その特徴を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究は、当初、平成27年度から平成29年度にかけて三年間で行われる予定であったが、最終的に一年間延長し、平成30年度までの四年間にわたって実施された。

(1) 平成27年度

国際関係における越境的アクターとその機能に関する先行研究の整理と分析

- ・ 関連文献の収集
- ・ 国内調査研究機関における資料調査

事例研究である太平洋島嶼地域における台湾承認問題をめぐる越境的アクターとしての先住民族の政治的機能に関する研究と調査

- ・ 関連文献の収集
- ・ 国内調査研究機関における資料調査
- ・ 台湾の調査研究機関における資料調査

(2) 平成28年度

太平洋島嶼地域における台湾承認問題をめぐる越境的アクターとしての先住民族の政治的機能に関する研究と調査

- ・ 関連文献の収集
- ・ 国内調査研究機関における資料調査
- ・ 台湾の調査研究機関における資料調査
- ・ 台湾での聞き取り調査および研究者との意見交換

研究の中間とりまとめ

- ・ 国際学会での報告
- ・ 台湾の大学でのセミナー報告

(3) 平成29年度

太平洋島嶼地域における台湾承認問題をめぐる越境的アクターとしての先住民族の政治的機能に関する研究と調査

- ・ 関連文献の収集
- ・ 国内調査研究機関における資料調査
- ・ 台湾の調査研究機関における資料調査
- ・ 台湾での聞き取り調査および研究者との意見交換

上記の研究・調査資料に基づく越境的アクターの政治的機能に関する考察

(4) 平成 30 年度

国際関係における越境的アクターの政治的機能に関する考察

- ・ 補足的関連文献の収集
- 研究成果の取りまとめ
- ・ 国際シンポジウムでの報告
 - ・ 日本語および英語による論文執筆

4. 研究成果

本研究では、太平洋島嶼地域における台湾承認問題をめぐる越境的アクターとしての先住民族の政治的機能を事例に、国際関係における越境的アクターの政治的機能について考察を行った。

(1) 台湾承認問題をめぐる越境的アクターとしての先住民族の位置づけ

台湾の総人口の約 2 パーセントを占めるにすぎない台湾先住民族（台湾においては、原住民族と呼称される）は、長年、マイノリティとして社会経済的に不利な状況に置かれてきた。そうした台湾先住民族の間で、先住民族運動が勃興するのは、台湾における民主化運動、および国際社会における先住民族運動が高まりをみせた 1980 年代のことである。台湾の先住民族運動は、台湾からオーストロネシア祖語が東南アジア、太平洋島嶼地域などに拡散したとする「出台湾」説、そしてそれを拡大解釈した、台湾先住民族が東南アジアや太平洋島嶼地域などの先住民族の始祖であるという言説を、自らの「原住性」に基づく権利主張の一つの拠りどころとしながら展開されていった。

一方、台湾政府にとって、国際社会における外交空間が狭められる中、民進党・陳水扁政権（2000 年 - 2008 年）は、外交関係を持つ国の約 4 分の 1 が存在する太平洋島嶼地域を重視し、同地域に多額の援助を供与して、中国から台湾への国交切り替えの拡大を図る「小切手外交」を展開した。同時に陳政権が着目したのが、台湾先住民族運動の文脈の中で現れた、台湾先住民族と太平洋島嶼地域先住民族とが同じ「民族」とする言説である。陳政権は、「小切手外交」のオルタナティブとして、台湾先住民族と太平洋島嶼地域先住民族の「オーストロネシア民族」間の交流推進を通じた国交切り替えへの働きかけを試みた。台湾および太平洋島嶼地域の先住民族は、台湾の国家的利害がかかる台湾承認問題において、政治的機能を果たす越境的アクターとして位置づけられたのである。

(2) 台湾承認問題をめぐる越境的アクターとしての先住民族の機能

陳政権時代（2000 年 - 2008 年）

陳政権は、2002 年のオーストロネシアン・リーダーズ会議の開催を皮切りに、2004 年にはオーストロネシアン・フォーラムと称する枠組みを設立して、台湾先住民族と太平洋島嶼地域先住民族の「オーストロネシア民族」間の交流推進を通じた太平洋島嶼地域における外交関係の拡大を図った。しかしながら、「オーストロネシア民族」自体、台湾先住民族運動と陳政権の太平洋島嶼地域に対する外交戦略から産み出された産物であり、太平洋島嶼地域においては、まったくと言っていいほど認知されていなかった。そこで陳政権は、オーストロネシアン・フォーラムを通じて、「オーストロネシア民族」の共通性を強調し、台湾および太平洋島嶼地域の先住民族を越境的アクターとして実体化させようと努めた。

だが、こうした陳政権の外交戦略は、期待通りの成果をあげたとは言いがたい。陳政権時代に、太平洋島嶼地域において中国から台湾に国交を切り替えたのは、ナウルとキリバスである。両国ともに国交切り替えの理由は、台湾が中国を上回る経済支援を提示したからであり、台湾および太平洋島嶼地域の先住民族の越境的アクターとしての働きかけによるものではなかった。むしろ台湾と国交を持つ太平洋島嶼地域の国々にとって、越境的アクターとしての先住民族は、自国の先住民族の文化保存に対する援助といった形で、台湾からさらなる経済支援を引き出すための名目として意味を持っていたと言えるであろう。

越境的アクターとしての先住民族が台湾から経済支援を得るための名目として意味を持っていたのは、中国と国交を持つ太平洋島嶼地域の国々にとっても同様である。その典型的な例として、フィジーがあげられる。先住フィジー系住民と移民の子孫であるインド系住民を抱えるフィジーは、中国と国交を持ちながら、先住フィジー系住民に対する台湾からの援助に期待を示した。フィジーという国家ではなく、あくまでも先住民族に対する援助である限り、「一つの中国」政策には反しないという姿勢をとったのである。

このように越境的アクターとしての先住民族は、この時期、陳政権が本来意図した太平洋島嶼地域における台湾の外交関係拡大という機能ではなく、台湾からの経済支援獲得のための名目という太平洋島嶼地域側の政治目的に寄与する機能を果たすことになったと言える。

馬政権時代（2008年 - 2016年）

2008年、台湾では、民進党・陳政権にかわって、国民党・馬英九政権が誕生した。馬政権は、中国から台湾への国交切り替え拡大を目指さず、「外交休戦」する意向を明らかにし、「小切手外交」を取りやめて、中国と良好な関係を築くことに努めた。「外交休戦」の下、太平洋島嶼地域に対しても、新たな外交関係の拡大は図らず、国交を持つ国々との関係を維持するにとどめる現状維持路線が打ち出された。

ここで注目されるのは、外交政策が転換された中であって、台湾および太平洋島嶼地域の先住民族は、馬政権によって、引き続き越境的アクターとしての位置づけが与えられた点である。馬政権は、オーストロネシアン・フォーラムを国際オーストロネシアン会議へと名称変更して存続させ、太平洋島嶼地域における台湾の外交関係拡大を目指すという政治色を払拭した国際会議へと改めた。台湾および太平洋島嶼地域の先住民族は、中国を刺激することを避けつつ、国際オーストロネシアン会議における相互交流を通じて、越境的アクターとして太平洋島嶼地域における台湾の外交関係の現状維持を図るといふ新たな政治的機能を持たせられたのである。

太平洋島嶼地域に対する台湾の外交政策の変化は、「オーストロネシア民族」としての共通性をことさら強調する必要性から離れた、より実質的な交流の余地を台湾および太平洋島嶼地域の先住民族に与えることになった。国際オーストロネシアン会議では、彼ら自身の関心に沿った、より主体的な交流が行われるようになり、両者の関係は深化をみせた。中国との関係に配慮し、政治目的を抑制した馬政権時代、先住民族主体の交流が進展し、それによって彼らの越境的アクターとしての政治的機能は高まったと言えるのである。

蔡政権時代（2016年 - ）

台湾の太平洋島嶼地域に対する外交政策は、2016年に中国と距離を置く民進党・蔡英文政権が成立すると、再び変化する。中国が外交圧力を強めたことによって、台湾と断交する国々が相次ぐ事態に直面した蔡政権は、断交国の出ていない太平洋島嶼地域の繋ぎ止めに関心を注ぐようになった。その中で台湾と太平洋島嶼地域の先住民族には、越境的アクターとして、太平洋島嶼地域における台湾の国交国を死守するという政治的機能が期待されている。はたしてそれが果たせられるかは、馬政権時代に始まった先住民族主体の実質的な交流が今後も継続し、台湾と太平洋島嶼地域の関係の基盤となっていけるか、にかかっていると見えよう。

（3）越境的アクターの政治的機能

上記の事例分析は、国家の利害を反映した越境的アクターの政治的機能が国家的利害に対する国家のスタンスによって変化してきたことを示している。このことから、越境的アクターの政治的機能には、国家による政治目的の抑制と、それにとまなう越境的アクターの主体性の増大が大きく関わっていると考えることができる。

5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

小柏葉子、太平洋島嶼諸国をめぐる台湾の外交戦略、国際開発ジャーナル、依頼原稿、743号、2018、52 - 53、査読無・依頼論文

小柏葉子、太平洋諸島フォーラム(PIF)の経済統合 労働移動自由化をめぐる、アジア研ワールド・トレンド、依頼原稿、22巻、2号、2016、8 - 11、査読無・依頼論文

〔学会発表〕(計4件)

小柏葉子、広域地域枠組みと太平洋島嶼諸国、日本貿易振興機構・アジア経済研究所国際シンポジウム「グローバル化の波とともに：太平洋島嶼国の持続的開発と地域主義」、2018

Yoko Ogashiwa, Region in International Relations, Seminar of Center of Austronesian Culture, National Taitung University, 2016

Yoko Ogashiwa, Taiwan-Pacific Island Countries Relations: Focusing on the Indigenous Peoples as Transnational Actors, Pacific History Association, 2016

Yoko Ogashiwa, Globalization and Regional Economic Integration in the Pacific Island Countries: Prospects for Development, IDE-JETRO International Symposium, 2015

〔図書〕(計1件)

小柏葉子、「太平洋諸島フォーラム諸国によるフィジーへの介入」、丹羽典生編、『紛争の比較民族誌 グローバル化におけるオセアニアの暴力・民族対立・政治的混乱』、春風社、2016、317 - 358